

藤崎町商工会行動プラン

～テーマ:会員サービス強化と地元資源活用で事業者の持続的発展への支援～

(1)商工会を取り巻く環境の現状と将来の姿

○自地域の総括的概要と現状課題

当町の人口は現在約1万4千人である。総面積は、37.29 km²で、町域には山岳・原野がなく、農業に適した肥沃な土壌に恵まれ、稲作、りんご、にんにく、トマト、アスパラの栽培が盛んである。大型店の参入や後継者不足、高齢化による域内消費の低迷などに加えて、観光資源の低い認知度、若者が働ける環境不足等が課題としてあげられる。

この課題に対応するため、町では、戦略的かつ機能的に運用できる新しいまちづくり計画として「みなで築く 希望に満ち、活力があふれるまち ふじさき」を将来像として、「第二次藤崎町総合計画後期基本計画」を策定している。

○人口動態

人口は、過去20年ほどで約 13%(2千百人余り)減少しており、2040年には約1万人まで減少するとの推計がでている。また、高齢化も進み、20年ほどで労働者人口は25%減少、60歳以上の割合も約24%から約35%となり、今後も進むことが想定される。

○商工業者や小規模事業者の動向

過去18年ほどで商工業者数は約20%(106者)減少、ほぼ小規模事業者である。本会独自調査では年率換算で1.6%減となり10年後は277者へ減少する見込みである。

	H18	R3	対比増減	年率換算	R6	R15	R6比
商工業者	530	424	△106	△1.1%	418	364	△54
小規模事業者	494	327	△167	△1.8%	322	277	△45

○その他産業構造など特記事項

青森県津軽平野のほぼ中央に位置し、東は青森市・黒石市、西は弘前市、北は板柳町、南は田舎館村に接しており、町中心部から、県都青森市まで約 25km、弘前市までは約 9kmの距離にある。隣接する市や町には複数の大型店があり、土・日・祝・祭日の購買力が流出している。

(2)重点推進施策

○基本的な考え方(ビジョン)

本会は、会員ニーズにあったサービスの提供を通じ、地元農産物や観光資源を活用した交流人口の増加と地域ブランドの確立を図り、地元中小・小規模事業者の持続的発展に貢献します。

○主な重点推進施策

- ・伴走型支援の強化による経営発達支援事業及び経営改善普及事業の実施
- ・会員サービスの向上による組織基盤の強化(会員増強)
- ・地元農産物を活用した地域ブランドの確立
- ・観光資源の周知と活用について町と連携し協議を重ねる

(3)重点推進施策を推進するための具体的な取り組み

○支援12項目の現状数値と数値目標の達成

支援項目	創業支援	事業承継	経営革新計画	経営力向上計画
現在値	1件	0件	0件	0件
目標値	6件	6件	3件	1件
支援項目	持続化補助金	経営計画策定支援	経営改善普及事業	マル経融資・件数
現在値	2件	0件	1,617件	9件
目標値	9件	16件	1,309件	8件
支援項目	マル経融資・額	記帳継続指導	記帳機械化	労働保険
現在値	108,500千円	58件	60件	116件
目標値	36,479千円	58件	60件	159件

※現在値は令和5年度の値、目標値は10年後の目標値

○上記以外の具体的な取り組み

- ・巡回と情報発信の強化
- ・定期的な町担当課及び関係機関との情報交換

(4)実施し得る体制(環境)

○あるべき体制

現在、商工会館は町の中心に位置しており、事務局長、経営指導員2名、補助員1名、記帳専任職員2名、記帳指導員1名の計7名で運営している。

現状の業務をこのまま維持するには、職員数の現状維持が必須であるが、小規模事業者の減少に伴った会員数の減少によって、令和10年度より単年度赤字が始まるシミュレーション結果がでていることから、会費及び各種手数料増額による財政基盤の強化が必要となる。

(5)体制(環境)づくり(時間軸)

本会独自調査によれば、むこう10年間は補助対象職員の減員は見込まれないが、事務局長については令和11年度には設置できなくなる可能性があることから、経営改善普及事業を現状維持するため、令和9年度までに、引き続き安定した事業者支援体制を新たに確立させる。

(6)特記事項

○町との協調体制の確立と安定的な支援の継続

藤崎町の第二次総合計画『みんなで築くふじさき未来プラン』にある、商業、工業、観光の各振興策に賛同し、町との連携を深めながら商工会としての各事業の関わり方について理解を求めていきたい。